

## 草津市幼保一体化検討委員会これまでの主な意見のまとめ

## ◆◇第3回までを振り返った中での大きな視点◇◆

- ①「幼保の教育・保育の質」を考えていく
- ②未就園者への教育・保育（未就園児活動）  
（子育て支援、地域との交流・協働、地域貢献等）
- ③特別支援教育のあり方  
（人員配置、公私立の役割分担）
- ④幼稚園での預かり保育や延長保育といった保護者ニーズ（職員配置体制の確保）
- ⑤幼保の連携、幼保小の連携（給食などを含め）

## ◆◇第4回を振り返った中での大きな視点◇◆

- ⑥子どもを中心においた幼保一体化に対する方向性
- ⑦幼保一体化に伴う職員のありかた、連携
- ⑧幼保一体化（認定こども園）の意義、課題  
既に実施している幼保一体の事例（良い点・課題）から、課題とその解決法を探る必要がある、
- ⑨幼保一体化への説明と関心を高める必要性
- ⑩預かり保育のあり方（幼稚園での預かり保育拡充ニーズ）
- ⑪待機児童対策へのアプローチ

## □■今回の議論の視点■□

- 3歳児からの幼児教育・保育のあり方
- 3歳児からの幼児教育・保育の確保のために、求められる体制とは（幼稚園・保育所での受入れや職員の体制等）
- 地域的な子どもの育ちの確保  
保護者アンケートでは、同一の小学校区で、幼・保・小がつながっていき、子どもの育ちを地域的に確保していきたいという思いがある。  
（一方で、保育所（園）・幼稚園の地域的な偏りや行きたい保育所（園）に入れない問題もある。）
- 幼・保・小の連携小学校との連携
- 幼稚園、保育所（園）に求められる子育て支援、家庭支援機能のあり方
- 特別支援教育のあり方